

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 22 号

日本におけるウインドサーフィンの普及過程と普及戦略

(Diffusion Process and Strategy of Windsurfing in Japan)

平野 貴也 (ひらの たかや)

博士 (スポーツ健康科学)

論文審査結果の要旨

【研究目的の特徴・独創性・論理性】

新興スポーツの普及発展について、E・ロジャースのイノベータ理論を援用した研究である。ロジャースの普及理論に基づき、普及過程を市場性、浸透性、組織性に加えて独自に露出性の4つの指標にしたことは本研究の独創性といえよう。37年間にわたる長期のデータ収集により、この種目の普及発展の歴史を明らかにしたことは有意義なことである。

【研究方法の妥当性】

ウインドサーフィンについて導入期、成長期、成熟期、飽和期、衰退・維持期の5期に分けて、それぞれの期内を市場性、浸透性、組織性、露出性の4つの指標から分析を試みる手法は妥当なものである。膨大なデータを丹念に収集してまとめ、冗長な語りになりがちな歴史研究をそれぞれの指標にはめ込んでゆくことでより客観性のあるデータとなっている。

【結果・知見の新しさ】

本研究では、ウインドサーフィンの普及発展から衰退・維持期までを明らかにしたものである。この種の新興スポーツの普及発展プロセスについて、具体的なデータをもとに結果が述べられている。このような推移は、概ね他の新興スポーツでも同様の傾向がみられ、別段新しい知見とはいえない。

【考察および結論の妥当性】

ロジャースのイノベーション理論に依拠して、4つの指標を用いて分析を試みた結果、導入期は組織性、成長期には市場性と露出性、成熟期には製品イノベーションによる市場性と浸透性に関する普及戦略が有効であったとする結論は、概ね妥当性のあるものであった。

【研究の当該分野における位置づけ】

この種の新興レジャー・スポーツの普及発展プロセスについては、概ね他の新興スポーツでも同様の傾向がみられるのではないだろうか。だとすれば、今回のウインドサーフィンの例でみられたように経緯をたどることなく普及発展を目指すための理論的枠組みを提供したという点で貴重な資料であるといえる。

【質疑に対する応答の適切性】

質問に対しては、真摯に回答する態度がみられたものの、回答と説明については困惑する

場面が幾度か見られた。応答の適切性は平均的なものであり、説明をより円滑かつ分かりやすくすることが今後の課題であろう。

【論文審査の結果】

審査会は、本研究がロジャースのイノベータ理論を援用するなど新規性に富み、客観性を担保しながら有意義な結果を論じていることから博士論文として妥当であると認める。また、申請者は本論文の筆頭著者として研究デザインの構成や資料の収集、結果の分析をした本研究の主たる遂行者であると判断できる。以上より申請者は博士論文最終審査資格を満たしていると判断し「合」とした。